

平成20年1月31日まで、午後5時から午前0時まで点灯されるペットボトルツリー



## 若い力で 生まれ育ったまちを元気にしたい

但東地域には、商工会青年部を対象としたスピーチ大会で、輝かしい成績を残した男性がいます。同部は、ふるさとを明るく活力あるまちにしようとするさまざまな活動を展開しています。今回は、その一人の男性を同部の活動を交えながら紹介します。

田畑 <sup>かずてる</sup>和輝 さん(33歳)但東町出合在住

### スピーチコンテスト 近畿大会で準優勝

但東町商工会青年部の副部長を務める田畑和輝さんは、今年9月に神戸市で開催された近畿地域の商工会青年部を対象としたスピーチ大会で準優勝に輝きました。同部は、但東町で商業を営む20歳代から30歳代の若者14人が所属しており、さまざまな事業やイベントを展開しています。田畑さんは「過疎化が進む但東地域で、地域の活性化に取り組み青年部の様子を熱く語ったことが結果につながりました」と笑顔で振り返ります。

スピーチの原稿は、部員全員で考えて作成し、内容は、平成17年から同部が取り組むペットボトルツリーのイベントの成功を軸に、絹織物産業の隆盛、その後の過疎化や台風23号被災など同町の歴史を絡めながら紹介しました。

### 支えてくれたのは 部員や友人たち

田畑さんは、これまで、あまり人前で話した経験がありませんでした。このため、最初は、原稿のシナリオが頭に入らず、一人で練習していたとも言葉が詰まり、スピーチが何度も途切れてしまいました。練習してもうまく話せず、悩む日々が続きました。

そんな田畑さんを支えたのが、部員や友人たちで、仕事が終わってから部員数人を前にスピーチの練習を重ねてきました。



但東町商工会青年部で副部長を務める田畑さん。家業の量店で働きながら活動を展開している。趣味は野球

その結果、次第に、堂々と滑らかに話せるようになり、今年5月に行われた但馬大会では見事に優勝。続く7月の県大会でも優勝し、近畿大会への出場権を獲得し、見事、準優勝に輝きました。

人となつないだ  
ペットボトルツリー

同部が取り組むペットボトルツリーは、平成16年の台風23号の被害を受けた但東地域に、明るい話題を届けたいという思いで、翌年から始まりました。

市役所但東総合支所前の駐車場には、約1,800個のペットボトルで作られたツリーが色鮮やかにライトアップされ、見る者の目を楽しませていきます。このツリーに使用しているペットボトルは、同部が町内在住者に呼びかけて収集したものです。

また、毎年10月に開催される但東いろどりフェスタでは、部員たちが自ら演じる寸劇「マモルンジャー」を披露し、訪れた人々を楽しませていました。そのシナリオは、ゴミの不法投棄やゴミの正しい分別方法を伝えるという内容で



但東いろどりフェスタで披露された寸劇「マモルンジャー」

笑顔いっぱい 汗いっぱい 夢いっぱい そろそろ挑戦

## 三方小学校（日高）

案内者 宮田実歩さん



三方小学校は、日高地域の神鍋高原の麓に位置し、大自  
然に囲まれた環境の中、19地  
区から160人の児童が通っ  
ています。

三方小学校に通う宮田実歩  
さんは衣食住文化クラブに所  
属し、週1回の活動では、ア  
クリルたわしや梅シロップ、  
桑茶などを作っています。ま  
た、要らなくなった服などを  
利用して趣味でマフラーやセ  
ーターなどを作り、友達にプ  
レゼントしています。



大自然に囲まれながら子どもたちが学習している三方小学校

今回は、宮田さんに三方小  
学校を紹介してもらいました。

私が通う三方小学校の特徴  
は、校舎玄関に入ると、階段  
の踊り場にステンドグラスが  
あることです。このステンド  
グラスは、地域の方がデザイ  
ンされたもので、校区の四季  
の移り変わりが描かれていま  
す。

毎朝、登校して来るとステ  
ンドグラスから外の光りが差  
し込んできて、とても気持ち  
よく一日が始まるので、私は  
このステンドグラスが大好き  
です。

学校行事の中で私が一番好  
きな行事は、11月ごろに「ハー  
ト・ハート」と題して行っ  
た祖母に学ぶ会です。

この行事は、地域の高齢者  
を講師に招いて、昔の暮らし  
や遊びなどを教えてもらいま

す。わら細工、ダイガクイモ  
はったい粉作りなどに挑戦し、  
楽しい時間を過ごします。

中でも、うどん作りがとて  
も楽しかったです。生地をし  
っかりと練って調理して食  
べました。自分たちで作って  
みんなと食べたから、とても  
おいしかったです。

また、1月にはスキー教室  
があります。この教室は、5  
年生が体育の行事として行  
うもので、昨年は雪が少なく  
できませんでした。みんな  
が楽しみにしているスキー教  
室ができるように、今年はい  
っぱい雪が降ってくれるこ  
とを期待しています。



地域の高齢者に教わりながらうどん作りに挑戦

私たちは、地域の方々との  
つながりを大切に、優しさ  
と温もりを感じながら、楽しく  
学校生活を送っています。

## 笑顔の輪

みんなと合奏 懐かしい音色に心も和む

### 「ハーモニカ同好会」(竹野)

竹野町で活動している  
「ハーモニカ同好会」は、趣  
味を通じて、健康的で誰もが  
楽しめるような活動をしよう  
と、平成13年に発足しました。  
現在、会員は8人です。練習  
は、毎月2回、メンバーの予  
定が合う日を決めて、竹野南  
地区公民館で行っています。

同会代表の津禰鹿武志さん  
(竹野町森本)は「ハーモニカ  
を吹くと気分転換になるので、  
毎回の練習日を楽しみにして  
います」と話します。

ハーモニカは、小学校など  
で誰もが一度は吹いたことの  
ある親しみのある吹奏楽器で  
す。吹くだけでなく吸うこと  
によっても音が出るので、長  
いフレーズを息つぎなしで演  
奏できることが特徴です。種  
類は、口に入れて演奏できる  
ほど小型のものから、60セン  
チメートルほどの長さまであ  
ります。

発足当時、メンバーは楽譜  
の読み取り方もわからず、な

かなか曲を演奏できませんで  
した。それでも、メンバーそ  
れぞれが楽しみながら練習し、  
みんなで合奏することができ  
るほどの腕前に成長しました。  
そして、練習した成果を竹野  
町文化祭や町内の小学校児童  
との交流会などで披露し、聴  
く人々の心を和ませています。  
メンバーは「ハーモニカを  
演奏することによって健康的  
でいられます。みんなと顔を  
合わせて演奏できるので、毎  
回の練習日を楽しみにしてい  
ます」と声を揃えています。



「自分たちのペースで楽しむこと」がモットーのメンバーたち